

カルデリーニ著 『イタリアの民俗衣装』全2巻

Calderini, Emma. Il costume popolare in Italia. 2 vols. Milano, Sperling & Kupfer, (1934?)

1953. 30.0×22.0cm 383.137-C-1~2 (文献番号7-18)

Hiler p.133

イタリアは近代のいわゆる^{リソルジメント}国家統一運動によって初めて「イタリア」という独立国家になったが、古来この地は人種のるつぼといわれ、多くの民族が集り、歴史的にみてもこの時までにはフランス、スペイン、オーストリアなど他国の領土であったし、古くは、各都市が都市国家的構造をもっていた。こうした歴史的要素のほか、気候、風土、過去の遺産、通商の多寡などの影響によって、現在のような国民性が形成された。民俗衣装についても、こうした要素が反映されており、地方ごとにそれぞれ独自の様相をもっている。

本書は、イタリアの20の州のそれぞれについて、代表的な民俗衣装を豊富な原色図版で示し、衣装の各部分の材質・色・型なども詳しく述べている。原色図版の上部には州名、下部には伊、仏、英、独の四か国語で服種が記されているので便利である。

イタリアの民俗衣装は、19世紀半ばに、その様式が定着したとされているが、以来住民の移動や二度の大戦などの影響で変遷を余儀なくされている面もあるが、本書のようなオリジナルな形を追求することは、芸術的、学術的な面のみならず、またイタリア国民の民族学的な様相をも理解する助けになる。

地方色は独特であるが、都市の大部分、特に、中部イタリアでは概して保守的であり、根源を強いて求めればフランス革命の時期にまでさかのぼる。トスカーナ地方は、農民の衣装の中心地であり、固有の衣装の様式が保持されることは少ない。しかし、他の地方よりは風雅で色彩豊かである。また山岳地帯の衣服は地味である。

女性の衣装はほとんどが二重のスカートになっており、短いショールや肩かけは共通にみられる。男性もスカーフを首にまいている。総じてみれば、いずれも優雅な装いといえる。

第1巻は北イタリア、第2巻が南イタリアに当てられている。



サルデニア島、サムゲオの祭り衣装